

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2572300073 | | |
| 法人名 | 特定非営利活動法人 NPOワイワイあぼしクラブ | | |
| 事業所名 | グループホームわいわい | | |
| 所在地 | 滋賀県湖南市石部東七丁目5番25号 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年1月15日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年3月27日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 一般社団法人 滋賀県介護福祉士会 | | |
| 所在地 | 滋賀県草津市笠山七丁目8番138号 滋賀県立長寿社会福祉センター内 | | |
| 訪問調査日 | 令和5年2月22日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「街かどのふつうの家でふつうの暮らし」を理念に、決まった日課はなく、お年寄りには毎日ゆったりと過ごしていただいています。決まった日課はない中でも、今まで生きてこられた暮らしを尊重し、歌やDVD鑑賞、パズル、絵手紙、家事といった好きなことや得意なことを、スタッフと一緒に和気藹々としています。
介護度が重くなられても、その方らしい暮らしを大切にするために、スタッフの体制に配慮したり、また、ボランティアの方にも携わっていただいています。
終末期を迎えられても、わいわいで過ごせてよかったと思っただけのよう、心温まるケアを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

木の温かみを感じる和風の家「グループホームわいわい」は、20周年を迎えた。開所当初より地域の自治会に入り、「わいわい」のスタッフも自治会の定例会に参加し情報交換を行って繋がりを深めている。コロナ禍で、買い物外出やボランティアの受け入れ等一部自粛したが、日々の散歩では、近隣の方と挨拶を交わしたり花や野菜をいただいたりとの関係は続いている。スタッフは、「普通の暮らし」を根幹に利用者と一緒に「ゆったり・のんびり・楽しく」を心がけた支援に努めている。身体的に重度になられても本人・家族の意向を確認しながら医療と連携し穏やかに過ごしていただけるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念をリビングに掲示している。会議の場でも理念を読み上げ、再認識する事で実践につなげているスタッフも多い。理念を踏まえ“できることはしていただく”、“一緒にするように”、“普通の暮らしを”を心がけている。開設から20周年を迎え、理念の継続を重要と感じている。 | 「普通の暮らし」を根幹として「ゆったり・のんびり・たのしく」を心がけ、利用者のペースに合わせて待つ姿勢を大事にしたケアに努めている。スタッフ優先のケアになっていないかを振り返り共有して実践につなげている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に入っており、地域の活動には参加するようにしているが、新型コロナウイルスの影響により制限が多い。夜間のお泊まりボランティアの受け入れも控えさせていただいている。普段の暮らしの中では、近隣の方と挨拶を交わしたり、花や野菜をいただいたり等のつながりは継続して持っている。今年度は、お手製のしめ縄を入居者分いただき、各居室に飾らせていただいた。 | コロナ禍で買い物外出や外食など自粛もあつたが日々の散歩は、少人数で出かけ近隣の方と挨拶を交わしたり取れたての野菜をいただいたりとの交流は継続している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域に向けては、今年度も運営推進会議は、新型コロナウイルス感染予防対策のために、書面会議で対応した。地域の小学校との交流もすることができなかった。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に一度、会議を開催しているが、今年度も、新型コロナウイルス感染予防対策のために、書面会議で対応した。内容に関して、ご家族から寄せられたコメントも参考とさせていただいている。 | 書面にて現状や取り組みについて等の議事録案を会議メンバーに配布し感想や意見を伺い運営推進会議議事録を作成し関係者に伝えている。いただいた意見等は職員間で共有しサービス向上に努めている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 事業所内で解決できない事や分からない事に関しては、市の担当窓口相談をし、連携を取っている。市の介護相談員の訪問を月に一度受けていたが、新型コロナウイルス感染予防対策のために、訪問を見合わせている現状である。 湖南省介護保険事業者協議会の会員であり、研修(リモート)に参加し学ぶことができた。 | 運営推進会議議事録で事業所の現状や取り組み等を伝え意見交換をしている。市の担当者とは必要時はいつでも相談できる関係が築かれている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束に関する研修に参加し、理解を深めている。参加したスタッフが会議の場で報告、情報共有することで、四点のベッド柵、センサーマットについても、使用しない時間をできるだけ短くする等、随時必要性や代替案を検討し、安全面を配慮した上で外せる事を目指している。 | 外部研修には、リモートで参加して会議の場で報告し身体拘束をしないケアについての正しい理解を確認している。やむを得ずベッド柵、センサーマットが必要な場合は、家族とも相談の上、し安全な方法を摸索検討し外せるよう取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修、会議の場で学ぶ機会を持つようにしている。常に入居者の身体状況を通して、虐待にあたるようなことがないか注意を払っている。言葉遣いやケアについて不適切ではないか会議の場で話し合いを行っている。定期的に開催される法人内の虐待防止委員会に出席し、意見交換を行っている。また今年度も法人内で、虐待に関する研修があり、参加をした。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を利用されている方がおられ、補助人や後見人とやり取りをさせていただいた。制度については、全スタッフが、必要性や理解までには至っていないため、学ぶ機会を持ちたい。今年度中に、制度に関する研修に参加を予定している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 事前に見学や説明といった話し合いの場を持ち、入居者やご家族との関係を築いている。契約に関しては、質問を受け、事務担当者とともに確認しながら進めている。入居後、内容に改定がある場合も、その都度説明を行い、確認・同意をいただいている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 月に1度、市より介護相談員が来所し、事業所内の様子や入居者とのやり取りを持ち帰ってもらっている。(現在、新型コロナウイルス感染予防対策のために、見合わせています。)ご家族との面会時や電話・メールにて、担当スタッフが中心となり、要望等を聞きだすようにしている。スタッフの名前と顔を知りたい、というご要望があり対応させていただいた。 | 担当職員が利用者の暮らしの様子を写真を添えて細かく伝え、面会時や電話・メールで意見や要望を伺って職員間で話し合いケアの向上に努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 2ヶ月に一度運営会議を行い、意見や提案を出し、協議している。管理者には、随時相談や報告できる環境である。また、個別面談等を通して、意見や提案を聞く機会も設けている。 多世代型共生ホームも運営しており、話し合いの機会が増えた。 | 会議の場でも日々のミーティングでも意見や提案はしやすく意見交換が出来る職員より聞き取った。特に利用者の笑顔を引き出す企画提案は活発であると聞く職員の研修や勤務についての相談も個別に相談できている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 勤務形態や労働時間に関しては、個々の状況や希望をできる限り取り入れ、働きやすい職場づくりに努めている。家庭と仕事の両立ができてスタッフも多い。個人の役割とチームでの役割で、目標を持ちながら働きやすい職場づくりに努めているスタッフが多い。多世代型共生ホームと兼務をしているスタッフもいる。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 一人ひとりの力量を把握した上で、研修の計画を立て、組み込んでいる。法人内研修だけではなく、外部研修の積極的な受講を勧めた。新型コロナウイルス感染予防対策のために、リモートでの受講も増えた。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 新型コロナウイルス感染予防対策のために、積極的な交流は控えている現状である。各々がそれぞれの研修等で交流や意見交換を行っている。ほほえみネットこなん(湖南省介護保険事業者協議会)に加入している。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご本人の目線に合わせて、話をさせていただくようにしている。ただ単に「聞く」ではなく、注意深く耳を傾け、「聴く」ように心がけている。日々を安心して過ごしていただけるように前向きな言葉でのやりとりを心がけている。 3/11 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご本人と同様に、ご家族と話す機会を設けており、関係づくりに努めている。ご家族からの情報や要望もケアに反映させている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 担当のケアマネージャーや相談員と意見を交わした上で、ご本人、ご家族との話し合いを重ねることで、入居時ケアプランを作成し、対応している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 介護する側、される側ではなく、“いっしょに”を念頭に、日々生活を送っている。何事も、ご本人と一緒にする事から学ばせてもらう事も多く、気遣ってくださったり、相談に乗ってくださったり、アドバイスをくださる等、支えてくださる場面も多々ある。楽しみややりがいも共有している。新型コロナウイルス感染予防対策のために、一緒に調理・盛り付け・食事を摂る事は、現状控えさせていただいている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族との面会時には、ご家族との時間・空間を過ごしていただけるように配慮している。ご家族から、入居者のこれまでの暮らしをうかがう事で、ホームでの暮らしに活かしている。 新型コロナウイルス感染予防対策のために、面会や外出に制限があるが、毎月のようにお知らせする写真では、枚数を増やしより多くの表情をお伝えできるようにした事で各々の絆をつなげられていると思う。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | なじみの場所や自宅に足を運んでいただけるように支援しているが、全員ではない。また、新型コロナウイルス感染予防対策のために、積極的な外出は控えている現状である。 市の広報を読んでいただき、一緒に地元の情報についてお話する時間を持てた。 | 感染防止対策を取りながら面会を受け入れたいと考えていたが、自粛される方が多く実際に交流する機会は少なかった。自宅より懐かしい写真を持参してもらい回想して楽しんでもらった。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 新型コロナウイルス感染予防対策のために、食事の時間や席等に配慮をしているが、居室で一人で過ごされる方もいる。日頃の関係性を把握し、気持ちの変化に気づいている。 感染症対策に配慮しながら、お誕生日や毎月のイベントを企画し、ゲーム等でも入居者同士が関心を持ち合えるよう、支援している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービスが終了した後も、ボランティアや運営推進会議のメンバーとして関係を継続している方もおられる。 相談を受けたり、以前入居されていた方と近い関係の方が入居に至った経緯もある。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者との普段の会話や言動等から思いを汲み取るように心がけている。会話が難しい場合は、表情や仕草、体調等から汲み取るようにしている。ご家族への心配を述べられる方には、気持ちに共感する姿勢で話を聴いている。 | 会話が出来る方とは日頃の暮らしの中で聴き取り、会話が困難な方には、表情やしぐさから意識的に思いを汲み取り職員間で検討・共有して暮らしのケアに活かしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人やご家族、また、担当のケアマネージャーや相談員から話をうかがい、これまでの生活の様子の把握に努めている。新たに知る情報は、細かく記録に残し、共有するように努めている。お一人おひとりの生活歴や背景を知る事の重要性を感じている。思い出の写真や昔の職業、出身地等の話題から、良い表情をされる方もおられる。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | “暮らしの様子”に心身の状態や、ご本人が話される事をそのまま記入することで、その人らしさが分かる現状を情報として共有している。日々の連絡事項には連絡帳も活用している。看護スタッフによるバイタルの測定に加えて、起床時・夕方に検温する事で体調の変化を見逃さないように努めている。些細な事でもスタッフ間で報告しあうようにしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 月に1回のモニタリング、3ヶ月に1回のカンファレンスで現状の把握、課題点等を話し合い、介護計画に反映させている。ご本人にも参加していただき、意見をもらう機会があった。状態に急な変化が見られた時には、緊急カンファレンスも行っている。必要に応じて、医師・薬剤師・訪問看護師にも相談し、意見を交換している。 | 本人には、直接聴き取りたり家族には、面会時や電話・メールで思いや希望を聞き介護計画に反映させている。モニタリングはケアマネを中心に職員間で意見交換して行っている。心身の変化の兆がある場合は、本人・家族、必要な関係者と話し合い見直しを行って臨機応変に対応している | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子は些細な事でも記録に残すようにしている。できるだけ専門用語は使わず、分かりやすい記録を心がけている。時系列や内容を書く事で、ご本人のペースやパターンが見えてくる事もある。ケアを見直す場合には、更に詳細を記録するノートを活用した。課題だけでなく、魅力についての気づきもカンファレンスや会議で情報を共有し、実践や介護計画の見直しにつなげている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 入居者の状態によって、眼科、皮膚科、精神科等のかかりつけ医以外の病院を受診した。介護保険以外の支援の要請にも対応している。入居者のお一人が、車椅子や椅子に座る姿勢を作業療法士からアドバイスをうけられた事もあった。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 新型コロナウイルス感染予防対策のために、積極的な外出は控えさせていただいているが、近隣スーパーでの買い物や芋掘り等は行う事ができた。湖南市に住む住民の一員として、新エネルギーとして期待される“イモ発電”に使用するサツマイモの空中栽培の取り組みに継続して参加している。今年度は、地域ボランティアさんによるゴーヤカーテンプロジェクトが再開され目でも楽しむ事ができた。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居者全員が近隣の小川診療所をかかりつけ医としているが、入居前からの専門の診療科を受診されておられる方もいる。看護師、訪問看護師を通しての連携も随時行っている。冬場は訪問診療を選択される方もおられる。歯科の訪問診療を受けている方もおられる。 | 近隣の提携医である診療所をかかりつけ医とされ主に往診を利用されている。他科の診療が必要な場合は紹介状が出される。認知症専門医には、以前からの病院に基本は家族同行（職員が同行の時もある）で通院されている。診療情報は、関係機関で共有され健康管理されている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護スタッフが2名おり、健康チェック、薬の管理、処置、受診の付添等をしている。看護スタッフ不在時は、連携している訪問看護ステーションに電話し、いつでも連絡を取れる体制となっている。医療面のケアの重要度が高い方は、個人契約もされている。今後、入居者全員が契約される予定としている。また、連絡帳と暮らしの様子も活用し、入居者の些細な変化も報告をしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | かかりつけ医との連携を取っており、往診にて治療ができる場合は、可能な限り事業所内で行っている。入院の判断は、ご家族の思いも聞き取り、かかりつけ医と相談している。医療度の高くなった入居者の退院に向けては、関係各所との連携に努めている。入院中も、状況の把握に努め、ご家族とカンファレンスに同席をしたり、退院後のケアに関して等、見通しを立てるようにしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に、終末期ケアに関する説明をご家族に行い、事前意向確認書を取り交わしている。説明が一方的にならないように些細な事でも相談しやすい関係を築いていきたい。ご本人の思いも尊重できるように努めたい。 実際に終末期に入った場合、かかりつけ医より説明を受け、ご家族と連携を取りながら、訪問看護ステーション等と状態を共有し、支援している。今年度は、在宅看取り推進セミナーに参加し、看取りの現場での現状を知り、勉強となった。 | 入居時に重度化した場合の意向確認をして、実際に重度化の傾向にある場合は、本人・家族に都度確認し医療関係者とも話し合い事業所が出来得る最大の支援に努めている。コロナ禍であっても居室にて家族との時間を過ごしてもらっている。急変時の職員の応援体制もある。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 普通救命講習や会議等で学ぶ機会はあるが、全てのスタッフに実践力が付いているとは言いがたい。AEDを設置したが取扱いを含め、訓練を定期的に行う必要がある。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2度の訓練を計画し実施している。近年、大雨による災害も多くなっているため、建物上階への垂直避難の訓練も行った。入居者役として参加したスタッフもいる。消火器の場所を再確認する等、繰り返し訓練をする事で、全スタッフが使用方法を身につけるようにしていきたい。 | 定期的に避難訓練が実施されている。山からの水害防止のため定期的に溝の掃除をしている。コロナ禍以前、事業所での避難訓練に地域の方が見学に来られたこともある。 | 様々な災害を想定した避難対策・減災対策を今後も継続して話し合われることを期待します。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 丁寧な言葉遣いに対応できるように心がけているが、会話の流れで緩む時があり、注意していきたい。声のトーンや言葉の使い方、身振り手振り等、その方に適した伝え方を日頃から模索している。見守りとプライバシー確保の間で常に意識するようにしている。プライバシーに関して会議の場で話し合い、自らに置き換えて考える事で、ケアにいかせるように努めている。 | ケアの場面で利用者に不快な思や傷つけた言葉になっていないかを職員同士がお互いに確認し合っている。難聴の方には、筆談や身振り手振りで、伝える等一人ひとりに合わせた言葉かけや伝え方を工夫している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 次の行動に移る前に、ご本人の意向や希望に添った支援ができるように努めている。こちらの気持ちを押し付けられないように心がけている。自己決定してもらえるように、分かりやすくゆっくりと声をかけさせてもらっている。会話の中で、「〇〇が食べたい。」「～したい。」といった思いは尊重し、できる限りの支援を努めている。言葉で思いを表す事が難しい方は、表情や仕草、反応から思いをくみ取るように努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | これまでの生活リズムを大切に、その日の体調や気分に合わせて過ごし方が出来るように支援している。トイレや入浴も、行きたいか入りたいかを、まずたずねるようにしている。夜中に、「おなかがすいた。」と、軽食や飲み物を摂られる方もいる。その日のスタッフの体制にもよるが、細やかな動作も、できる限り希望をきいてから支援するよう心がけている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 着替えの際、その日着る服を選んでもらうようにしているが、着てもらいやすさや気候等の兼ね合いから、スタッフの目線で選んでしまっている事もある。意思の表現が難しい方には、その人らしさを感じさせる身だしなみをしていただけるように配慮している。今までの習慣やこれまで使用されている化粧品の継続等にもお手伝いさせていただいている。髪の毛のセットや、髭剃りのお手伝いもさせていただいている。爪は看護スタッフが切らせてもらっている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 新型コロナウイルス感染予防対策のため、準備や調理、食事を一緒にする事は、現在控えさせていただいている。食感も大切にしながら好みや状態に応じて形態を変える、等の工夫をしている。誕生日やイベント時には、メニューと一緒に考え、目でも楽しんでいただけるように手作りで用意している。秋には、屋外で、特別感のあるメニューで楽しんでいただけた。 | 朝・昼は職員が調理している。夜は配食利用している。好き嫌いにも対応。パンを焼いたり、ワンプレートに盛ったり華やかにして楽しんでもらっている。車いすは移動の手段と考え椅子に移動して食べてもらっている。 | 椅子への移動は生活リハビリにもなり素晴らしいと思います。腰痛予防や安全のためにも移乗方法や座位姿勢についての研修を検討されてはいかがでしょうか。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事が進まない時は、ゼリーやプリン、果物等の食べやすいものを勧めている。一日の記録やトイレの記録から、水分が摂れているかの確認をしている。食事量や水分量は一回あたりの摂取量より、一日を通しての量に着目する事を心がけている。咀嚼や嚥下の状態を把握するだけでなく、習慣に応じた献立にする等、支援に努めている。毎月体重を測定し、増減にも注意している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 起床後や毎食後、おやつの後には口腔ケアをしているが、個人差がある。歯みがきや入れ歯の手入れの他に、うがいの難しい方には口腔ケア用スポンジの活用や、お茶でのうがい等の支援をしている。かかりつけの歯科の訪問で、口腔ケアを受けておられる方もいる。食前にお口の体操をされる方もおられた。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 「トイレに行きたい」という訴えにはすぐに対応している。一人ひとりの排泄パターンに応じて、トイレにお誘いしている。ご自分でトイレへ行けない方でも、ふと発せられた言葉や動きに気を配り、トイレでの排泄を支援している。おむつやパッドの種類は随時見直しの検討をしている。外出の前には、トイレでの排泄を支援している。 | 個々の排泄の時間や様子は表にし把握している。出来るだけパットでなく、トイレでの排泄に心掛けた支援に努めている。また羞恥心に配慮した言葉がけをしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 乳製品や水分を多く摂っていただいたり、トイレでお腹のマッサージをさせていただいている。様子を見ながら整腸剤や下剤を使ったり、浣腸や摘便で対応させてもらう事もある。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | スタッフの体制により難しい日もあるが、出来る限りお一人おひとりの希望や体調に合わせて入浴していただいている。排便をされた際には不快な思いをされないように、シャワーや入浴にお誘いしている。入浴リフトを導入し、介護度が高くなっても、苦痛を軽減しながら入浴していただいている。入浴されない日は、清拭や足浴、ドライシャンプー、下半身のシャワーをしていただいている。毎晩、足浴をされる方も数名おられる。 | 職員優先でなく、利用者の良い時間帯で入浴している。入浴剤を入れたりゆっくりした時間にしている。入りたくない人に対しては、無理強いはせず、日や時間を変えて声をかけている。時には家族の協力を得たりの工夫している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | リビングでは、リクライニングチェアで休まれる方がおられる。冬場は加湿目的で、居室に濡れタオルや洗濯物を干している。室温や室内の明るさ、布団の枚数、眠りやすい体勢のためのクッションの当て方等に配慮している。夜間の見廻りは、睡眠の妨げにならないように配慮している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 一人ひとりの服薬状況は、一つのファイルにまとめてあり、いつでも確認ができる。また、用法や症状に変化のある時は、看護師が連絡帳に記録し、全スタッフに周知できるようにしているが、塗り薬に関しては変更も多く戸惑う時もある。状態に応じて、飲み続けるべき薬なのか、かかりつけ医や薬剤師に相談や報告をしている。今年度は、会議の場で看護師よりお一人おひとりの薬の効果や副作用について説明を受ける機会を設けた。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 家事を役割としてされている方や、新聞や(絵)本を読んだり、あやとりやゲーム、歌や映画鑑賞等を楽しまれている。今まで楽しんでいた事を今後も継続されるかどうかの検討も必要だと思われる。季節ごとのイベントは雰囲気からも楽しんでいただけるように計画をしている。12月には「20周年のつどい」を開催できた。お一人おひとりの嗜好品に関しては、本人やご家族から伺い、提供させていただいている。ご家族からの差し入れも多く喜ばれている。コーヒーを飲む、甘いものを食べる事を楽しみとされている方もおられる。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 新型コロナウイルス感染予防対策のために積極的な外出は控えていただいているが、少人数で、春にはお花見、秋には芋掘りを行った。その際、スタッフのペット(うさぎ)との交流もあり喜んでいただけた。近所の公園まで散歩に出かけたり、ドライブに行かれる事もあった。ご家族とドライブや外出される方もおられた。 8/11 | コロナ禍で買い物や外食は自粛したが、屋外で食事やお茶をして楽しんだり、少人数で(車いすの方も)近所の公園まで散歩の支援があった。庭の畑で花や野菜の水まきをする等外気にふれる機会は多くあった。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご自分でお金を持たれている方もおられる。普段、ご自分で手もとにお金を持っておられない方でも、必要時や買い物に出かけられた際には、ご自分の手で支払っていただけるように努めているが機会が少ないのが現状である。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | スタッフが毎月のお便りを書く際には、ご本人の言葉や思いを反映させている事がある。電話をかけてほしい、という思いには対応させていただいているが、ご家族との関係性にも配慮しながら、控えてもらった事もある。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 毎月、行事担当スタッフが中心となり、お正月やひな祭り、こいのぼり、七夕の笹やクリスマスツリー等の飾りつけを一緒にしたり、入居者のみなさんが製作された作品を飾って、季節感を取り入れた空間づくりに努めている。ご近所や地域の方からお花をいただく機会も多く、入居者のみなさんと一緒に活けた。音、温度に関しては感じ方に違いがあり、トラブルになる事もあった。「トイレが汚れている。」との指摘には、すぐに対応させていただいた。 | リビングには離れて2台のテレビが設置されていて、好みの音や番組がみられる。エアコンは常に温度調整に気をつけている。スリッパを履かない習慣の床は清潔に磨かれ、床暖が心地よく感じられる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | お気に入りの席が決まっている方もおられるが、どこで過ごしたいか希望をうかがい対応をしている。和室にはソファもあり、寛ぎの空間となっている。トラブルが起こりそうなときには、スタッフが間に入っている。 新型コロナウイルス感染予防対策のために、食事の時間をずらしたり、距離をとる等の制限が優先されている現状である。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 慣れ親しんだ物や、ご家族の写真、趣味の物等のなじみのある物に囲まれた空間を作っており、居室ごとに雰囲気や家具も見直しをさせていただいている。新型コロナウイルス感染予防対策のために、居室で過ごしていただく時間が増えているため、より快適に過ごしていただける工夫をしていきたい。 | 自宅で使っていた馴染みの家具や仏壇を部屋に持ち込まれ自宅に近い雰囲気となっている。一人ひとりの身体動作に合わせて安全を考えた動線にも配慮がある居室となっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 暮らしの場という考えを持ち、すぐにお手伝いするのではなく、まずご自身でしていただく等、「できること」は、その方の生きる役割、生きがいにつながる、という思いを持ちお手伝いさせていただいている。車椅子は移動の手段とし、できる限り椅子に座ってもらう支援に努めている。限られた空間ではあるが、歩行器で安全に歩いてもらえるように物の配置を見直した。 | | |

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|------------------------------------|--|--|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 35 | 定期的に避難訓練は実施しているが、防災・減災対策は充分とは言い難い。 | 避難訓練だけでなく、全スタッフは日頃から防災・減災の意識を持ち、対策につなげる。 | 在宅避難（ホームでの避難）も想定し、住まいの防災・点検を行う。 また、日常備蓄の定期的な見直しも行う。 | 12ヶ月 |
| 2 | | | | | ヶ月 |
| 3 | | | | | ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

| 【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】 | | 取り組んだ内容 | |
|---------------------------|--------------------|-----------------------|---|
| 実施段階 | | (↓該当するものすべてに○印) | |
| 1 | サービス評価の事前準備 | <input type="radio"/> | ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った |
| | | <input type="radio"/> | ②利用者へサービス評価について説明した |
| | | <input type="radio"/> | ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした |
| | | <input type="radio"/> | ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した |
| | | <input type="radio"/> | ⑤その他() |
| 2 | 自己評価の実施 | <input type="radio"/> | ①自己評価を職員全員が実施した |
| | | <input type="radio"/> | ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った |
| | | <input type="radio"/> | ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った |
| | | <input type="radio"/> | ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った |
| | | <input type="radio"/> | ⑤その他() |
| 3 | 外部評価(訪問調査当日) | <input type="radio"/> | ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった |
| | | <input type="radio"/> | ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた |
| | | <input type="radio"/> | ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た |
| | | <input type="radio"/> | ④その他() |
| 4 | 評価結果(自己評価、外部評価)の公開 | <input type="radio"/> | ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った(話し合う) |
| | | <input type="radio"/> | ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った(話し合う) |
| | | <input type="radio"/> | ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った(話し合う) |
| | | <input type="radio"/> | ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った(話し合う) |
| | | <input type="radio"/> | ⑤その他() |
| 5 | サービス評価の活用 | <input type="radio"/> | ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した |
| | | <input type="radio"/> | ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(依頼する) |
| | | <input type="radio"/> | ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(提出する) |
| | | <input type="radio"/> | ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む) |
| | | <input type="radio"/> | ⑤その他() |